

Data Special

東証マザーズ指数

瀬戸際INDEXの妙味

CONTENTS

- Overview (他の株価指数との比較)
- 指数の値動きの特徴
- 株価の相関 銘柄ランキング
 - 高相関上位40銘柄
 - 低相関上位40銘柄
- 値動きの相関 銘柄ランキング
 - 高相関上位40銘柄
 - 高相関上位40銘柄 (除く、Index,ETF)
 - 低相関上位40銘柄
 - 低相関上位40銘柄 (除く、Index,ETF)
- 順張り・逆張り売買 高パフォーマンス銘柄ランキング
 - [東証マザーズ指数の引値に順張り売買]上位80銘柄
 - [東証マザーズ指数の引値に逆張り売買]上位40銘柄
 - [東証マザーズ指数の寄り付き方に順張り売買]上位40銘柄
 - [東証マザーズ指数の寄り付き方に逆張り売買]上位40銘柄
- 特別付録・おわりに

東証マザーズ指数は、時に株価指数とは思えないダイナミックな動きをします。

それが絶大な妙味を提供してくれた例が、16年2月12日の安値664.92ポイントをつけた後の大上昇。4月21日には1230.82ポイントまで上値を伸ばしています。「株価指数」が2ヶ月少々で実に85%の上昇です。

その後、一旦押して高値更新トライをしていた矢先の5月18日、今度は原因不明の大急落。そこから約半年、市場全体が弱い動きになると途端に大陰線を描くという、全くもって悲惨な下げトレンドと化してしまいました。

その弱いトレンドが16年11月9日の安値798.86ポイントを底に大転換。以後、1年2ヶ月を超える上昇トレンドです。

この上昇トレンドは市場全体のトレンドと軌を一にしていたわけですが、その間の調整局面におけるこの指数の下げ方がまたダイナミック。「もはやこれまでか」というギリギリの水準まで下げています。ところがそこで踏み止まってトレンドが再開。本年早々に16年4月の高値をブレイクし、1月24日に1367.86ポイントという高値をつけるに至っています。

その高値からちょうど半年。トレンドは一変し、2月から安値更新が止りません。直近の最安値は7月5日の991.50ポイント。16年11月からのトレンドの中で最大のギリギリ水準。トレンドを崩すか否か、文字通りの瀬戸際です。

そうした局面にあるからこそ注目したいのがこの指数です。

この水準で反転するにしても、下抜けするにしても、また株価指数らしからぬダイナミックな動きになる可能性は大いにあります。それが、短期でも値幅が狙える収益の源泉になるのは言うまでもありません。

この指数の値動きを利益に替える手段は、マザーズ指数先物だけに限りません。値動きの関連性が確認される個別銘柄も売買対象の有力候補になります。

具体的にどの銘柄をどう売買するのか。本データを是非ご参考ください。この指数ならではの妙味ある特性を、個別銘柄の売買に存分に活かせるのではないかと強く期待しています。